

Generous Split (仮)

3～5人 / 30分 / 8歳以上

カード構成

カードは5色（黒、白、青、赤、黄）あり、黒は1～12、ほかの4色は1～7、各1枚の計40枚です。黒はゲーム中特別に強い色であり、「切り札」と呼びます。ほかの色に強弱はありません。

目的

ゲームの終わりに、自分の前に集めたカードの枚数が得点になります。ただし、プレイヤーの中でもっとも多くのカードを集めてしまうと、1点ももらえません。1位を避けることが重要です。さらに、1枚も集めなければ特別に点数がもらえることにも注意してください。

準備

適当な方法で親を決めます。親はカード40枚をひとまとめにして裏向きによく切り、時計回りで全員に裏を向けて1枚ずつ、同じ枚数を配れるだけ配りきります。3人のとき余った1枚は裏向きのままわきによけ、その回のゲームには使いません。各プレイヤーは3人なら13枚、4人なら10枚、5人なら8枚を、他人に見せないよう手に持ちます。これを「手札」と呼びます。

親の左側のプレイヤーから、ゲームを始めます。

ゲームの流れ

最初のプレイヤーは、好きなカードを手札から1枚、自分の前に表向きに出します。これを「台札」と呼びます。続いて、時計回り順に残りのプレイヤーも1枚ずつカードを出しますが、このとき台札と同じ色のカードが手札にあれば、必ずその中から選んで出さなければなりません。同じ色がなければ、どの色のカードを出してもかまいません。

全員が1枚ずつカードを出したら、勝敗を決めます。切り札（黒）のカードが出ていれば、その中でもっとも数字が大きいカードがその勝負に勝ちます。黒のカードがなければ、台札と同じ色でもっとも数字が大きいカードが勝ちます。

【切り札（黒）のカードが勝った場合】

勝った人はまず、自分が出したカードを裏向けて手前に引き取ります。これは手札とは別にして置いておき、ゲームの最後に点数とします。勝った人はさらに、

- 1) 他の全員がこの勝負に出したカードを、1つの山にして場の中央に裏向きに置く。
- 2) 自分の手札から他の全員がこの勝負に出したカードと同じ枚数（人数-1枚）を選び、1つの山にして場の中央に裏向きに置く。その後、他の全員が出したカードを自分の手札に入れる。

のどちらかを選んで行います。前の勝負でできた山があったら、新しい山を重ねて置いてかまいません。手札の枚数が交換に足りない場合、2)は選ぶことができません。

【黒以外のカードが勝った場合】

勝った人はこの勝負に出されたカードと、場の中央に集まったカード山をすべて引き取り、手札とは別に裏向きにして、自分の手前に置いておきます。

切り札（黒）が勝った場合も、それ以外の色が勝った場合も、勝った人が新しい台札を出して次の勝負を始めます。これを、全員の手札がなくなるまで繰り返します。全員が同じ枚数の手札を持っているため、必ず同じタイミングで勝負が終わります。

ゲーム中、一度裏向きにしたカードは誰も見てはいけません。

得点

ゲームが終わったとき、自分の手前に集めたカード1枚につき1点になります。

ただし、全員の中でもっとも多くカードを集めた（もっとも点数の高い）プレイヤーは、何枚であろうと0点になります。そのような人が2人以上いれば、その全員が0点になります。

また、1枚もカードを集めなかったプレイヤーがいれば、その全員が10点もらえます。

点数の最も高いプレイヤーがゲームの勝者です。ぜひ、人数分のゲームを行って合計点で真の勝者を決めるとよいでしょう！

Generous Split

Game Design: Kazuma Suzuki (Twitter: @_kazuma0221)

©Tarte Games 2020

Email: tartegamestokyo@gmail.com